

「Swing the sun 紹介文」

岡和田晃

「あれからSF Prologue Waveの『エクリプス・フェイズ』小説を読もうと思うのですが、どの作品から始めたらいいでしょうか？」

——イベントなどで、このような質問を受けることがある。

SF Prologue Waveは「SFマガジン」の「てればーと」欄に毎号、紹介文が掲載されている。なかでも、この『エクリプス・フェイズ』企画は、ゲーム雑誌「Role&Roll」でも毎号、紹介されている (http://prologuwave.com/archives/category/ep_info)。これまでSFに興味があっても、なかなか手を出せずにきた人たちがいる。

それが『エクリプス・フェイズ』をきっかけとして、SFの世界を覗いてみようと考えてくれているわけだ。

あるいはその逆。

SF作家クラブ50周年記念のブックフェアやイベントを通して、SFの魅力を再発見

してくれた人たちがいる。

今は、前代未聞のSF短篇アンソロジー・ブームが到来しているが、実のところ、昔ながらの宇宙冒険SFの割合はそんなに高くないように思われる。

ブルース・スターリング『スキズマトリックス』やアレステア・レナルズ『啓示空間』の系譜に連なる、ポストヒューマンな宇宙冒険SFはないものだろうか？

そういう方々が、『エクリプス・フェイズ』に興味をもってくれている。

むろん、これまで紹介してきた『エクリプス・フェイズ』小説は、いずれも世界の魅力を存分に引き出しつつ、個々の作家の個性が遺憾なく発揮されたものだ。

いずれも甲乙つけ難い完成度にある。つまり、どの作品から読んでいっても大丈夫。そう、太鼓判を押すことができるだろう。

だが、仮に涙を吞んで一作に絞るならば、今回から連載される片理誠（現SF Prologu e Wave編集長）の新作「Swing the sun」が、入門にぴったりの逸品ではないか。

なぜ「Swing the sun」がオススメなのか？

ひとことでは、抜群の安定感。そして圧倒的なリーダーダビリティ。

丁寧な筆致は『エクリップス・フェイズ』世界を理解する格好の教材にもなるだろう。

いま、SF界で最も熱いテーマとも言われる“ポストヒューマン”を正面から扱いな
がらも、どこか懐かしさを感じさせるレトロフューチャーチャーな雰囲気。

アウトローを描きながら、どこかあたたかみを感じさせる筆致。

野田昌宏編のアンソロジー『太陽系無宿／お祖母ちゃんと宇宙海賊』、収録作のなか
では、エドモンド・ハミルトンの『キャプテン・フューチャー』のようなスペース・オ
ペラの名作にも通じるだろうか。

そしてアクション、怒濤のアクション！

“日本SFの夏”を代表する作品だとすら思うが、さすがに言葉が過ぎるだろうか。
けれども、片理誠は、この「Swing the sun」に一つの勝負をかけている。

その気迫を、君も体感してほしい。

毎号、多量のSF小説を読みこなす気鋭のイラストレーター・小珠泰之介の手になる、
美しいイラストが付記されるのも見どころだ。

なお、宇宙船にまつわる各種設定、ならびに“ダイソン・リング”の設定には、著者が想像を膨らませた部分がある。

「Swing the sun」に興味をもっていたいただいた方は、続いて、ジョニー・スパイス船長が活躍する「黄泉の縁を巡る」(<http://www.prolognewave.com/archives/1919>)に進んでみてほしい。